

ケータイ活用教育研究会 ICT活用授業レポート

2016年度10月～3月期

大学名	石川県立大学
学部、学科、コース等	生物資源環境学部、食品科学科
教員名	海老原 充
科目名、授業名	生化学概論
実施日時（曜日、時限等）	火曜日1限
学年、対象クラス	1年生 生物資源環境学部
場所	石川県立大学 K219 剛教室
受講人数	144名
公開シラバス URL	なし
授業のねらい、目的	生化学の基礎知識と身近な現象とを結びつけ、かつ自ら学ぶ姿勢を習慣化するための仕掛けづくりを行う
ICT活用により期待できる効果、ICT活用のねらい	「学ぶことが面白い」ということを体験するための仕掛け作りと他の学生たちの考え方をすることで自分の考え方を見直す
利用機能	出席 アンケート 小テスト ドリル 協働版 教材倉庫
その他 ICT 利用機能	
授業の展開・デザイン (全体の流れと ICT 運用の流れ、消費時間数、道具)	<p>講義前・・・教材倉庫に講義資料(穴あき)と教科書予習プリントを公開</p> <p>講義開始時・出席確認と教科書予習プリントの回収</p> <p>講義中・・・アンケート機能による理解度確認</p> <p>講義後・・・復習小テストの実施と單元ごとに「10問ドリル」による確認</p> <p>生化学ビデオ作成とその評価</p>
学習成果、考察、所感	<p>これまで、c-learning は理解が遅れ気味の学生の補助としての成果が色濃く出ていたが、本年度はすべての講義終了後のアンケートで意外な結果が得られた。多くの学生が「講義への集中度や関心度が高まった」と回答し、中には自宅に帰ってから、講義の内容を家族に話すようになったと回答した学生もいた。特にアンケート機能を利用すると、他人の考えに触れることで自分の考え方の不足している部分を確認できるため、それがその直後の講義への集中力を高めていることが学生の態度、特に“目つき”から強く感じられ、実際、確認テストを行うと、実施したアンケートなどの内容にかかわる問いには正答率が高い傾向があった。</p>
ICT活用の更なる発展への提言	<p>学生たちは、他人の学習動向が気になるようである。自分以外のどれだけの学生がすでにレポートを出したのか、小テストを受けたのかなどは、成績に直結するため特に気になっている。ところが、レポート作成時に学生相互で議論することは少ないどころか、レポートを提出していない友人がいても、それを注意しないことも多く見受けられる。他人の動きは気になるけど、さりとて積極的に働きかけることはしない中途半端な無関心さとも言うのだろうか。</p> <p>そこで、協働版やみんなで評価といったテーマが設定されているものではなく、他の学生がどれだけ c-learning にアクセスしているか、ドリルを何回チャレンジしているかなど、統計的なデータが表示されるような機能があると、学生のやる気をかき立てる仕組みになるのではないだろうか。他人と比べることを良しとはしないかも知れないが、小学校でやっていた早朝マラソンを何周走ったかを競うグラフに似た「ある種のゲーム感覚」的なデータとして表示できれば面白いかも知れない。</p>